

昭和女子大学の国際交流



- ▶ 1988年
海外キャンパス・昭和ボストン開校
年間約500名が留学（長期留学は350名）
- ▶ 2012年
文科省グローバル人材育成支援事業に採択
- ▶ 2016年6月
TUJとの単位互換協定締結（年間45名の枠）
- ▶ 2019年4月
TUJとのダブルディグリー協定締結（年間12名の枠）
- ▶ 2019年秋
米国州立大学テンプル大学ジャパンキャンパスが移転

TUJとの連携



英語圏協定大学への正規留学枠の大幅増

TUJ単位互換協定 年間45名

TUJダブルディグリー協定 年間12名

経済的負担の少ない「国内留学」



学生の多くが英語圏協定大学への正規留学を目指す



対人伝達言語能力(BICS)と 認知、学習言語能力(CALP)



BICS (Basic Interpersonal Communication Skills)

- 日常の会話能力。高い認知能力を必要とするものではなく、日常の場面に密着した(context-embedded)言語使用。

CALP (Cognitive Academic Language Proficiency)

- 学問的な思考をするときに必要な言語能力のこと。抽象的な事柄などを考えていかなければならないため(context-reduced)、認知的な負荷が高い。

英語到達目標の明確化

TUJの英語出願資格

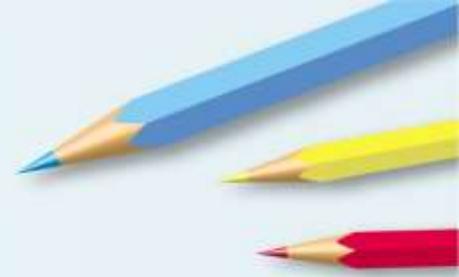
TOEFL iBT 79点以上

TOEFL PBT 550以上

IELTS 6.0以上

英検 準1級～1級

TOEIC 800～900



IELTSの6.0とはどのくらいのレベルか



BAND	レベル	英語能力
9.0	エキスパート・ユーザー	十分に英語を駆使する能力を有している。適切、正確かつ流暢で、完全な理解力もある
8.0	非常に優秀なユーザー	
7.0	優秀なユーザー	
6.0	有能なユーザー	不正確さ、不適切さ、および誤解がいくらか見られるものの、概して効果的に英語を駆使する能力を有している。特に、慣れた状況においては、かなり複雑な言語を使いこなすことができる。
5.0	中程度のユーザー	
4.0	限定的ユーザー	慣れた状況においてのみ、基本的能力を発揮できる。理解力、表現力の問題が頻繁にみられる。複雑な言語は使用できない。
3.0	非常に限定的なユーザー	
2.0	一時的なユーザー	
1.0	非ユーザー	いくつかの単語を羅列して用いることしかできず、基本的に英語を使用する能力を有していない

測定されるリーディング力

- ・文章の要点や趣旨、詳細を把握する力
- ・言外の意味を読み取る力
- ・筆者の意図や姿勢、目的を理解する力、
- ・議論の展開についていく力など

書籍や雑誌、新聞などから問題が出題。専門的な内容ではなく、一般教養的な内容の問題が多い。大体900語ぐらいの文章を3つ読む



測定されるライティング力

- 質問に的確に答えているか
- 解答は論理的か
- 幅広く正確な語彙・文法が使用されているか

何かできたら6.0か

- complex sentenceとsimple sentenceの両方を使用。文法や句読点に間違いはあるが、コミュニケーションに支障をきたすことはほとんどない。
- 質問に答えるのに十分な語彙を使用している。正確でない場合もあるが一般的ではない高度な語彙を使用しようとしている。
- 情報やアイデアの一貫性やまとまりがある。妥当な結論を導いているが、アイデアの展開は不十分な点がある。



平均的な大学生の英語能力

TOEIC IPテスト 大学1年生 427点
 大学4年生 502点

TOEIC® Program DATA&ANALYSIS 2016

英検 高校卒業時の準2級、2級取得率 32%
 文部科学省教育課程部会配布資料

IELTSで言うと4.0？



IELTSの6.0とはどのくらいのレベルか



BAND	レベル	英語能力
9.0	エキスパート・ユーザー	十分に英語を駆使する能力を有している。適切、正確かつ流暢で、完全な理解力もある
8.0	非常に優秀なユーザー	
7.0	優秀なユーザー	
6.0	有能なユーザー	不正確さ、不適切さ、および誤解がいくらか見られるものの、概して効果的に英語を駆使する能力を有している。特に、慣れた状況においては、かなり複雑な言語を使いこなすことができる。
5.0	中程度のユーザー	
4.0	限定的ユーザー	慣れた状況においてのみ、基本的能力を発揮できる。理解力、表現力の問題が頻繁にみられる。複雑な言語は使用できない。
3.0	非常に限定的なユーザー	
2.0	一時的なユーザー	
1.0	非ユーザー	いくつかの単語を羅列して用いることしかできず、基本的に英語を使用する能力を有していない

IELTS4.0から6.0レベルへ

授業時間 少なくとも1,000時間？

国際学科(例)

2年の前期までの授業時間 450時間

(学期中6コマ＋夏期講習、春期講習含む)

2年の後期に昭和ボストン 360時間



大学2年次終了までに約810時間:十分とは言えないが、6.0まで上げることは可能



どう教えるのか

- ・内容のあるテキストの多読。ななめ読みだけでなく、精読も含めた多様な読み方が必要
- ・内容のある音声素材の多聴
- ・意識的な語彙の増強
- ・基本的な発音の訓練
- ・細かい文法の間違いや、発音の間違いを恐れずにある程度の長さの発話や、文章を書く訓練
- ・実際に話し、書くというプロセスの中で、コミュニケーションに支障をきたした文法項目の再学習
- ・母国語である日本語の効果的使用

- ・根拠に基づいた客観的、論理的な議論の進め方の訓練(クリティカルシンキング)
- ・さまざまな分野の知識の養成
- ・異文化コミュニケーション能力の養成



学生の現状

目標設定の不十分さ

7月末に国際学科1年生全員(93名)へのアンケート

BICSレベル: 47.9%

目標設定があいまい: 35.1%

CALPレベル: 16.0%

日本人としての現実的な目標設定が重要



英語学習に関する間違ったビリーフ

- ・とにかくわからなくても良いから英語をシャワーのように浴びることが重要である。 67.0%
- ・英語を勉強するさいにはListening → Speaking → Reading → Writingが自然な順番である。 48.9%
- ・文法を意識的に学ぶ必要はない。英語を使っていれば自然に文法は身につく。 22.3%
- ・英語を読む際にはできるだけ辞書に頼らず、推測しながら読むほうが良い。 69.1%
- ・留学をして現地で生活すれば英語は自然に身に着く。 56.4%

間違った学習に関するビリーフの是正が重要

